

○ フィリピンに現地法人設立、日本産和牛の普及・販拡めざす—MCグループ

(株)ミート・コンパニオン(本社:東京・立川市、阿部昌史社長)は9月5日、フィリピンに現地法人「MEAT-COMPANION PHILIPPINES CO., INC. (株)ミート・コンパニオンフィリピン」(マニラ首都圏マカティ市)を設立した。フィリピンは近年、経済発展が目覚ましく、とくにアジア市場のなかでも圧倒的に若年層が多い。今後も堅調な経済成長が見込まれるなかで日本食の人気も高まっており、ミート・コンパニオンは現地法人を拠点に日本産和牛の普及と販売拡大を通じて、一層の輸出促進体制を強化させてゆく。同社の海外現地法人展開はタイに続いて2カ国目となる。

資本金は40万フィリピンペソ(800株)で、フィリピンでの会社法上、現地出資者(出資比率60.0%)、(株)ミート・コンパニオン社(同36.0%)、ほか(4%)の共同出資となる。ミート・コンパニオンでは、フィリピンでの現地法人を設立する一方で、グループの食肉センターである(株)アグリ・ワン和光ミートセンターにおいても対フィリピン輸出食肉取扱施設認定取得に向けて取り組み、同社の海外輸出向け和牛ブランド「WAGYU SAMURAI」の輸出とともにブランド認知と拡販に向けた体制整備に努める方針だ。

さらに10月には、同社が中心となって組織する首都圏ミートパッカー輸出推進協議会においても現地で和牛セミナー勉強会などを予

定しており、日本産和牛の情報発信を促進し、輸出拡大に弾みをつけたい考えだ。

今回の現地法人設立について、阿部社長(=写真)は「すでにタイでは、13年に現地法人を設立しており、その他関連会社やレストラン事業などへも進出し、事業を拡大しながら軌道に乗りつつある。それに比べてフィリピン市場は、まだ日系企業の進出も少なく、治安の問題や情報不足といった点から、日本との距離は近いものの、まだ身近な市場とはいえない状況だ。しかし、肉食文化と富裕層の増加、人口ボーナスへの期待も高く、都市部や観光リゾート地の経済成長を目の当たりにすると、シンガポールや香港といった成熟した市場とは違い未知数であり、これからアジアの中でも重要な販売市場になってくる。現段階ではまだ手探りの状態だが、まずは一歩踏み出すことにした」とコメントしている。

フィリピン法人の住所は次の通り。23RD FLOOR GT TOWER INTERNATIONAL, 6813 AYALA AVENUE BRGY BEL-AIR SALCEDO VILLAGE MAKATI CITY



○ 豚舎機材の通販サイトを開設、スムーズな受発注サービスを提供—ヨシモトアグリ

豚舎の設計施工や農業施設関連機器の製造販売などを行うヨシモトアグリ(株)(本社:東京・千代田区)は21日、豚舎の関連機材の専門通販サイト(www.yagri-shop.com)を10月1日から運用開始すると発表した。

バッテリーやヒーター、非常窓、床材など機材のメンテナンス部品類を中心に取扱い、スピーディーかつスムーズな受発注サービスを提供する。顧客側も従来の電話・FAXなどによる注文に比べて、スマートフォンやタブレット端末などを使って豚舎や自宅からでもサービスを利用することが可能となる。「商



品は主に輸入品が多いため、在庫がない場合は商品が到着するまで待ってもらう必要があった。

今回、機材メンテナンス部品を中心に一定数量をストックすることでスピーディーなデリバリーが可能になった」としている。なお、サイトオープンを記念し、先着100人にオリジナルマスキングテープを商品に同封するという。詳しくは同社(TEL:03-3214-1553、FAX:03-3212-7507、yagri.shop@ypole.co.jp)まで。